

# より質の高い1級訪問介護員養成を目指して －課題学習が訓練の質の向上に与える影響－

秩父高等技術専門学校 佐川 みゆき

## 1. はじめに

平成12年度介護保険制度創設に伴い、多くの訪問介護員が誕生した。平成13年度末現在、全国で約79,000人の1級訪問介護員が養成されている<sup>1)</sup>。当校においても平成10年度から1級訪問介護員養成(訓練期間6ヵ月)を開始し、現在216人の修了生が介護保険施設等で活躍している。

平成14年度、当校において行った企業ニーズ調査によると、「質の高い訓練を実施してほしい」という意見が多く寄せられた。このことは、訪問介護員の養成は「数の時代」から「質の時代」へと転換が求められていることを示している。

当校では、質の高い訓練とは「介護職としての資質の高い訓練生の育成である」ととらえ、さまざまな目標の訓練を実施してきた。

今回、平成13年度から行っている課題学習が訓練の質の向上に与える影響について、訓練生および修了生のアンケート調査の結果から分析し、報告する。

## 2. 課題学習の概要

### 2.1 課題学習の目的、目標

[目的]

介護に関する学習体験のなかから課題を選定し、まとめる過程を通して介護に対する考え方を深める。

[目標]

- 1) 動機を明確にし、学習課題を選定する。

- 2) 論文の基本的なまとめ方を学ぶ。
- 3) 文献検索の方法と活用方法を理解する。
- 4) 効果的な発表の方法を理解し、実践する。

### 2.2 訓練指導展開

訓練生20人を4グループに分け、1グループ5人で実施する。

- ① 修了前3ヵ月：課題学習オリエンテーション  
課題学習計画書(図1)作成

グループ名	グループメンバー
テーマ (課題)	
動機 (テーマ 設定理由)	
目的	
方法 (手順)	
スケジュール	

図1 課題学習計画書

- ② 修了前2ヵ月：論文作成
- ③ 修了前1ヵ月：抄録および発表用資料の提出
- ④ 修了1週間前：発表準備（AM）発表（PM）
- ⑤ 修了3日前：本原稿提出  
課題学習集録作成

### 2.3 課題学習発表

[発表時間]

1グループにつき、20分間（準備から発表まで）

[発表形式] 自由



写真1 課題学習集録



写真2 発表資料作成



写真3 発表風景

[その他]

- ・訓練生が、司会および書記を務める。
- ・それぞれのグループに対し、質疑応答および訓練生、指導員による講評を行う。（10分間）
- ・最後に校長による総評を行う。

### 2.4 課題学習テーマ

平成13年度から平成15年度前期生までの課題学習21題の内訳は、「介護保険制度に関するもの」5題、「生活援助に関するもの」4題、「痴呆性高齢者や心理療法に関するもの」4題、「リハビリテーションやレクリエーションに関するもの」4題、「その他」4題であった（表1）。

## 3. 結果

### 3.1 訓練生のアンケート内容および結果

調査の意図を説明し同意が得られた訓練生17名に

表1 課題学習テーマ一覧

	テーマ
介護保険制度に関するもの	介護保険制度～利用者目から見た施設サービスの選び方～
	秩父市における高齢者配食サービス事業の現状と展望 ～これからの高齢化社会にどのように活かされていくか～
	在宅介護を支える福祉用具 ～福祉用具の役割と利用に関する知識～
	知って得する介護保険制度 ～介護保険制度はどの程度知られているのか～
	訪問介護員および介護福祉士の比較検討
生活援助に関するもの	糖尿病～楽しく作って楽しく食べる食事の工夫～
	高齢者がひとりりでできる調理の工夫 ～レンジで安全かんたんメニュー～
	がんばれヘルパー！家事援助～家政婦業務との違いから～ 一つの材料で何が出来る？～じゃがいも編～
痴呆性高齢者や心理療法に関するもの	痴呆性高齢者に対する心理学的援助方法 ～もっと身近に音楽療法～
	グループホームにおけるケアの特徴
	痴呆性高齢者の介護～問題行動とその対応策について～
	アニマルセラピー～動物における癒しの効果～
リハビリテーションやレクリエーションに関するもの	遊びリハビリテーションの位置付けと効果 ～リハビリテーションとレクリエーションとの関係～
	高齢者の健康維持論 ～介護する人・される人みんな一緒にリハビリ体操～
	施設における高齢者のレクリエーション ～心から楽しめるレクリエーション～
	脱・寝たきり～「寝たきりを増やさない介護」を目指して～
その他	高齢者にやさしいまちづくりに向けて ～秩父市のバリアフリー化の現状と課題～
	高齢者の転倒事故を防ぐ～私たちに何が出来るか～
	障害児の家族の心理と周囲の環境～ホームヘルパーを目指す私たちの事例とアンケートをもとにした考察～
	アルコール依存症の実態～アルコール依存症とその解決法～

対し、課題学習修了後以下の項目についてアンケート調査を行った。

[訓練生のアンケート内容]

- ① 課題学習における満足度
- ② 課題学習における不安（実施前および実施後）
- ③ 課題学習における期待（実施前および実施後）
- ④ 課題学習のそれぞれの時期における気持ち（実施前および実施後）
- ⑤ 課題学習のなかで難しかったところ（複数回答）
- ⑥ 論文作成のなかで難しかったところ（複数回答）
- ⑦ 課題学習を行ったなかで学んだこと

\*①～⑦のうち、④⑦は自由記述とした。

[訓練生のアンケート結果]

「課題学習における満足度」では、17名（100%）が満足と答えている。「課題学習における不安」では、実施前不安であった者は17名（100%）であったが、実施後は16名（94%）が不安はなくなっている。（図2）「課題学習における期待」では、実施前期待していた者は10名（59%）で、期待していなかった者は7名（51%）であったが、実施後は17名（100%）が期待を達成させている（図3）。「課題学習のなかで難しかったところ」は、論文作成が17名（100%）、次いで課題学習計画書作成および発表が7名（42%）

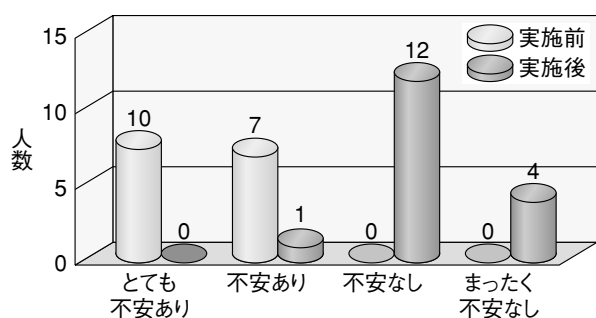


図2 課題学習における不安比較

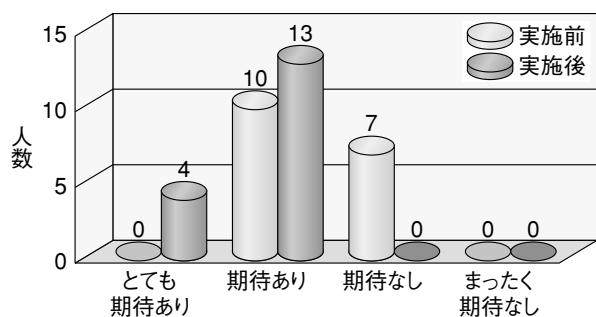


図3 課題学習における期待比較

であった。また、文献検索は1名（6%）、データ収集は2名（12%）といずれも少人数であった（図4）。「論文作成のなかで難しかったところ」については、「考察」が17名（100%）、次いで「結論」が13名（76%）であった。また、「はじめに」および「方法」はいずれも1名（6%）と少人数であった（図5）。「課題学習のそれぞれの時期における気持ち」「課題学習を行ったなかで学んだこと」については、以下に記述内容を抜粋する。

【課題学習実施前の気持ち】

- ・限られた時間内にできるのか不安。
- ・何から調べたらよいか不安。
- ・グループで1つのものをまとめるのが不安。

【課題学習実施後の気持ち】

- ・もう一度やりたい。
- ・授業のなかで、一番真剣に取り組んだ。
- ・グループで協力して1つのものを作り上げたという充実感を味わえた。
- ・実施前と実施後でこんなに気持ちに変化するとは思わなかった。「できるわけがない」から「やればできる」に変わった。

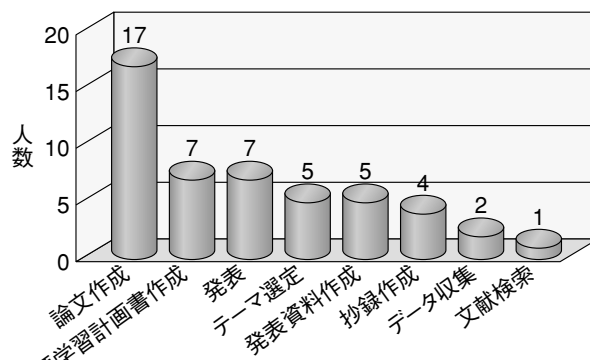


図4 課題学習の中で難しかったこと

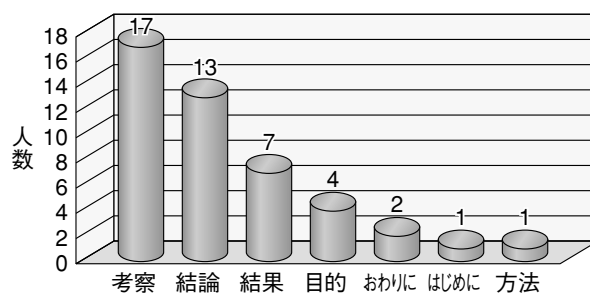


図5 論文作成の中で難しかったこと

- ・1つのテーマを追求する楽しさを知ることができた。

#### 【課題学習を行ったなかで学んだこと】

- ・グループ内での自分の役割を見つけて、できることを行うこと。
- ・人はそれぞれ違った意見をもっているのので、受け入れたり受け入れられたいが必要である。
- ・グループで仕事をしていく留意点を学べた。
- ・自分が疲れていると周囲にやさしくなれないので、介護職として心身共にベストな状況にしておくことが大切である。
- ・グループ内で協力することの大切さ。
- ・助け合う、また、自ら意見を出すこと。
- ・論文の作成方法そのもの。

### 3.2 修了生のアンケート結果

修了後、介護職として勤務している修了生のうち、意識調査の意図を説明し同意が得られた修了生13名に対し、以下の項目についてアンケート調査を行った。

[修了生のアンケート内容]

- ① 課題学習の満足度
- ② 課題学習は、修了後役にたっているか。
- ③ 役だっている内容

\*①～③のうち、③は自由記述とした。

[修了生のアンケート結果]

「課題学習の満足度」については、12名（92%）が満足していると答えている。また、「課題学習は、修了後役にたっているか」についても、12名（92%）が役だっていると答えている。「どのように役だっているか」については、以下に記述内容を抜粋する。

- ・多忙ななかでも問題意識を持ち取り組むことができている。
- ・現場は、チームワークや記録が大切であり課題学習そのものである。
- ・1つのことを成し遂げた達成感、充実感が今の仕事の原点である。
- ・1つのことに対し、客観的に物事を考えられるようになった。
- ・たとえチームの中で意見が分かれることがあっても、良い方向に持っていく過程を楽しむことがで

きる。

- ・物事を順序立てて考えることができるようになった。
- ・課題学習を進める過程で調べたり、考えたりした経験により、仕事上問題があったとき自分で解決の糸口を見つけられるようになった。
- ・施設では研究発表の機会が多いので、すべてが役にたっている。

## 4. アンケート結果からの考察

見藤<sup>2)</sup>は、看護師の資質とされることについて、やさしさ、論理性、責任感、主体性、感じる力をあげている。これは、介護職の資質ともいえるものであると考える。訓練生のアンケート結果の記述の中に「人はそれぞれ違った意見をもっているのので、受け入れたり受け入れられたいが必要」（やさしさ）、「グループ内での自分の役割を見つけて、できることを行う」（責任感、主体性）、「自ら意見を出す」（主体性）や、修了生のアンケート結果の記述の中に「問題意識を持ち取り組むことができる」（主体性）、「1つのことに対し、客観的に物事を考えられる」（論理性）、「物事を順序立てて考える」（論理性）、「チームの中で意見が分かれることがあっても、その過程を楽しむ」（感じる力）など、介護職の資質と考えられる記述があった。

課題学習に対する不安については、実施前全員が不安と答えていたが、実施後にはほぼ全員が不安がないと答えている。また、課題学習における期待についても、実施前期待していた者は約半分であったが、実施後は全員が期待を達成している。「授業のなかで、一番真剣に取り組んだ」、「やればできる」、「1つのテーマを追求する楽しさを知った」等の訓練生の記述から、他者から教わったのではなく、自らの手でつかみ取り理解したという気持ちが、実施前後の気持ちに変化をもたらしたと考える。

課題学習のなかで難しかったところは、論文作成、課題学習計画書作成および発表の順であり、文献検索データ収集については、難しくないと結果であった。前者は自分で考える必要が多々あり、後者

はありのままを情報収集すればよいことから、このような結果となったと考えられる。

論文作成のなかで難しかったところについては、“考察”、“結論”の順であり、“はじめに”および“方法”は難しくないという結果であった。前者は結果から自分で考え結論を見いだすという過程であり、後者は課題学習計画書の内容とほぼ同様であることから、このような結果となったと考えられる。

## 5. まとめ

以上のことから、課題学習が訓練の質の向上に与える影響は、以下の3点である。

- ① 課題学習を行うプロセスの中で、訓練生は介護職に必要な資質を身に付けている。また、修了後も課題学習を原点とし、さらに資質を向上させている。
- ② 課題学習の前後で、不安・期待などの気持ちが良い方向に変化するためには、自らの手でつかみ取ったという気持ちが影響している。

- ③ 課題学習のプロセスの中で最も難しいのは、論文作成であり、その中でも自分で考え答えを見いだす考察が、最も苦手といえる。

## 6. おわりに

これまで、質の高い訓練を目指しさまざまな試みを行い、評価してきた。今回導入した課題学習も、「自分の考えが主張でき、他者の意見も聞ける人の育成」や「組織人としてチームワークがとれる人の育成」等の企業ニーズと合致する点多々あった。

今後も、「訓練の量」よりも「訓練の質」を考えながら、即戦力となる訓練生を育てていきたい。

### <引用・参考文献>

- 1) 財団法人厚生統計協会編集：『国民の福祉の動向』、p.188、財団法人厚生統計協会、2003。
- 2) 見藤隆子：『人を育てる看護教育』、p.71～p.114、医学書院、1994。
- 3) 杉下知子：『介護職を理解する－よりよい共働をめざして』、日本看護協会出版会、2000。

# ホームヘルプサービス ハンドブック

BOOK GUIDE

### 家事援助サービス編

■井上千津子 監修／■ホームヘルプ研究会 編著

### 身体介護サービス編

■井上千津子 監修／■ホームヘルプ研究会 編著

### 福祉用具活用編

■村井三義 監修／■ホームヘルプ研究会 編著

各●A5判／2色刷●定価840円(本体800円)

超高齢社会を迎え、身体介護や介護支援が必要な  
お年寄りにとって、在宅で暮らすために欠かせない  
ホームヘルプサービス。

「家事援助サービス」「身体介護サービス」の実践、  
「福祉用具」の活用のうえでのポイントを、イラスト、  
グラフ、コラムを数多く取り入れ、わかりやすく解説。

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-5-11 社団法人 雇用問題研究会 ●<http://www.koyoerc.or.jp>  
TEL●03-5695-0780 FAX●03-5695-0837